

神鋼記念病院 感染対策センター
センター長 香川 大樹

【 どうすれば感染症診療に自信を持てるのか？ 】

4年前に始まったこの連載もついに最終回を迎えることになりました。最後のお題は「どうすれば感染症診療に自信を持てるのか？」です。これまでお話ししたポイントに注意して研鑽を積み診療されている先生は、感染症診療の腕を上げられたことでしょう。しかし、自信を持つまでには至っていないかもしれません。どうすれば自信を持てるようになるのでしょうか。

紹介先の医師に問い合わせたり、担当した患者さんのカルテを取り寄せたりするなどして、自分の判断が正しかったのか間違っていたのか「答え合わせ」をすればよいのです。「患者さんが良くなった」というだけで満足してはいけません。誤診していたのであれば、患者さんが良くなったのは「まぐれ当たりの偶

然”に過ぎないからです。「診断が正しかった」のでなければいけないのです。さらに言えば「診断が正しかった」ということで満足してもいけません。「診断した疾患に対し、その時点での“標準治療(=科学的根拠に基づいた観点で最良の治療であり推奨される治療)”を行なった」のでなければいけないのです。

模試の答え合わせをしない受験生は伸びません。「どの問題を間違えたのか、正解は何だったのか、偶然正解したのか」などを分析しなければ、弱点はいつまでも弱点のままであり自信の持ちようがありません。感染症診療も同じです。ひと手間かけて答え合わせをすることで、自分の判断に自信を持てるようになるのです。

Medical News

2018年2月
Vol.128

Shinko Hospital

Contents

- *特集：診療科紹介 [循環器内科]
- *開業医探訪 [赤松外科消化器内科医院]
- *感染症科医のつぶやき
- *Information ・講演会のご案内

神鋼記念病院理念

公益性を重んじ、質の高い医療を通して、皆様に愛される病院を目指します。

基本方針

1. 快適な医療環境と医療設備を整え、安全で質の高い医療を提供します。
2. 患者さんの人格や価値観を尊重し、プライバシーを守ることを約束します。
3. 断らない救急医療を目指し、地域社会の信頼と期待に応えます。
4. 地域の医療機関や行政との連携を密にし、切れ目のない医療サービスの提供に努めます。
5. 高い医療技術を持った人間性豊かなスタッフを育成します。

社会医療法人神鋼記念会
神鋼記念病院

〒651-0072 神戸市中央区脇浜町 1-4-47
TEL : 078-261-6711 (代表)
FAX : 078-261-6726
URL : <http://www.shinkohp.or.jp/>
発行責任者：理事長 山本 正之
編集責任者：神鋼記念病院広報委員長 山神 和彦

講演会などの
詳しい情報は
こちらから!!
神鋼記念病院 検索
<http://www.shinkohp.or.jp/>



[特集 診療科紹介]

神鋼記念病院 循環器内科

循環器内科とスタッフ構成

神戸市中央区は循環器内科の激戦区です。半径1km以内に当院を含めた3病院が縦にならび、少し距離をのばせば神戸大学医学部附属病院や神戸市立医療センター中央市民病院といった大病院も通院圏にあります。その中で我々循環器内科は、急性心筋梗塞といった救急診療に対応するだけでなく、地域に根差した医療を提供することが必要とされています。

現在、その役割を担うため当院循環器内科には6名のスタッフと1名の専修医の7名が在籍しています。カテーテル治療、高血圧診療、画像診断、心不全・弁膜症治療と各々が専門性を持ちつつチームカンファレンスを行い日々の診療にあたっています。

 開発 謙次 科長 (H9 年卒) カテーテル室長 虚血性心疾患・心臓核医学	 亀村 幸平 医長 (H10 年卒) 高血圧センター長 二次性高血圧	 本庄 友行 医長 (H12 年卒) 冠動脈造影 CT	 今西 純一 医長 (H18 年卒) 心不全・弁膜症
 曾根 尚彦 医師 (H24 年卒) 循環器全般	 吉川 祥子 専修医 (H25 年卒) 循環器全般	 岩橋 正典 副院長 (H2 年卒) 循環器全般	

循環器内科が掲げる4本の矢

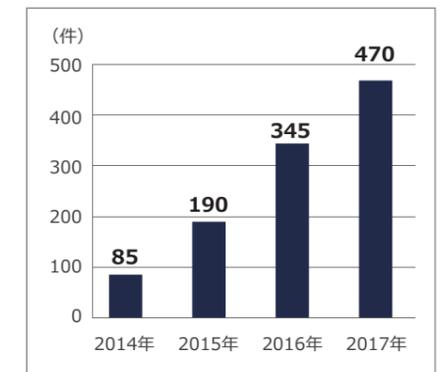
1. 画像診断の充実

虚血性心疾患は、生命にかかわる重篤な疾患であり早期診断が重要です。当院では2013年より320列マルチスライスCT (MSCT) が導入され、非侵襲的に冠動脈疾患のスクリーニングを行うことが可能となっています。

MSCTによる冠動脈CTは、冠動脈狭窄のみならずプラーク性状や石灰化の分布、冠動脈起始部異常などを評価することができます。病変性状を視覚的に評価することにより、事前に

治療方針を立てることができ、安全かつ確実な治療に役立つだけでなく、有意狭窄のない患者さんにおいても積極的な1次予防の介入が可能となり、疾病の発症を抑制することができます。

特に、当院では造影剤を使用しない冠動脈単純CTによる無症候性虚血性心疾患のスクリーニングにも積極的に取り込んでいます。CTで評価できる石灰化スコア (Agatston score) に



当院における冠動脈CT件数の推移

第28回研究カンファレンス(個の医療研究会共催)
iPS細胞を用いた視機能再建

2/22 (木) 18時00分~19時00分

申込不要

理化学研究所 多細胞システム形成研究センター
網膜再生医療研究開発プロジェクト

副プロジェクトリーダー 万代 道子 先生

- ◆ 場 所：神鋼記念病院 呼吸器センター5階 大会議室 (神戸市中央区脇浜町 1-4-47 TEL : 078-261-6711)
- ◆ その他：日本医師会生涯教育認定講座 1単位申請
- ◆ お問合先：神鋼記念会 総合医学研究センター 担当：兒山(こやま) TEL : (078)261-6711(代表)

より冠動脈疾患の有病率を予測し、糖尿病患者や高齢者など無症候性や腎機能障害を有する患者さんのスクリーニングに役立っています。

2016年11月には冠動脈CTをオープンシステム化することにより、開業医の先生方に利用して頂けるようになり、年々依頼件数は増加しております。それに伴い、カテーテル治療も増加しており、安全かつ適切な治療を提供できるよう日々邁進しております。

2. 高血圧専門外来、高血圧センターの創設

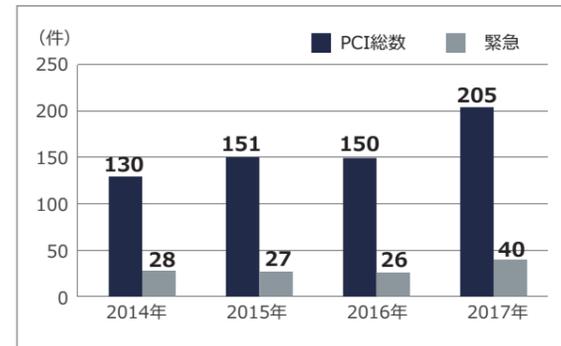
日本には、1,000万人を超える方が高血圧症を患っていると言われていいます。血圧上昇は動脈硬化の原因のみならず、心不全や腎機能障害など

様々な疾患を併発するため早期から食事指導も含めたコントロールが重要です。

また、高血圧症の5～10%には何らかのホルモン異常や腎動脈狭窄、遺伝子異常などの影響が関与しているといわれています。これらを総称して二次性高血圧症と呼ばれ、その中で最も多くの割合を占めるのが原発性アルドステロン症です。

原発性アルドステロン症は適切な診断、治療を行うことにより、多くの症例で内服加療を行うことなく血圧コントロールが可能になりますが、しっかりと診断がなされていないまま漫然と内服加療が行われているケースも散見します。

当院では、2017年4月より高血圧専門医である亀村医師が赴任し、高血圧専門外来、高血圧センターを設立したことにより、初期スクリーニングから確定診断に至った際の腹腔鏡手術まで一貫して行うことが可能となりました。特に、診断に際し必要な負荷検査、副腎静脈サ



カテーテル治療件数

ンプリング検査、診断後の治療まで含めて一貫して循環器内科で行うことにより、複数の科を受診することなくスムーズに治療を行うことができます。また、確定診断に必要な負荷検査や画像診断などは基本的にはすべて外来で行い、患者さんの負担を減らし迅速な対応を心がけています。その甲斐もあって、高血圧専門外来開設後わずか9ヶ月間で副腎静脈サンプリング検査は30件と県内でも有数の病院になっています。

3. ハートチームの構築

我が国においても高齢化社会に伴い心不全患者は増加の一途をたどっており、80歳を超えた高齢者においては死因の第1位となっています。一方、介護が必要な高齢者の方に半数近くが循環器疾患を患っています。

高齢者の心不全患者は、腎不全など多臓器の障害や認知症など併存疾患も多く、複数の診療科の受診を必要としたりする方が多いのが特徴です。

こうした背景から、当院でも2017年に医師、看護師、管理栄養士、理学療法士、ソーシャルワーカーによる



ハートチーム

ハートチームを立ち上げました。入院時から、積極的に治療介入を行い、服薬アドヒアランスの向上や退院後の生活習慣、家庭環境の改善、介護サービスなどのサポートへも積極的に介入し、様々なアプローチで再入院を減らし健康な生活が送れるよう努めています。特に、オリジナルの心不全手帳を作成し、患者さんがセルフチェックを簡単に行えるようにし、症状が重症化する前に治療に介入できるような環境も整えました。

また、心臓リハビリテーションも積極的に行い、心肺運動負荷試験(CPX)を定期的に施行し適切な運動療法を行い、健康で豊かな生活をモットーに日々取り組んでいます。

4. 臨床研究、総合医学研究センター【Herat PLUS 1】の設立

総合医学研究センターは、2010年に設立された熊谷膠原病リウマチ研究所を母体として、2012年に設立されました。2014年3月には【器官組織病態研究所】が設立され、その中の循環器部門として2016年に【Herat PLUS 1】を設立しました。

【Herat PLUS 1】という名前の由来は、普段行っている診療に何かスバ

イスを加えることで、より良い医療を提供し、患者さんの生命予後やQOLの向上に努めたいという思いからこの名前に至りました。創設してまだ2年ですが、American Heart Association (AHA)でも2年続けて演題が採択され、日本循環器病学会でも優秀演題賞を取得するなど、少しずつではありますが成果を上げていっています。今後も様々な研究を発信していき、地域医療ならびに循環器診療の発展に貢献していきます。

最後に

2018年4月には、神戸大学医学部附属病院より肺高血圧を専門としている中山和彦医師が新たに赴任します。神鋼記念病院は内科診療科が充実しており、呼吸器疾患や膠原病関連の肺高血圧症の患者が多いのも特徴です。現在の診療内容に加え、新たな治療を提供できる神鋼記念病院循環器内科を今後とも宜しく願い申し上げます。



循環器ホットライン TEL : 070-6500-7555

24時間体制で当院循環器内科 医師につながります

開業医探訪 Vol.37

inquires into a doctor

[消化器内科, 外科, リハビリテーション科]

赤松外科消化器内科医院

灘区上野通で消化器を中心に半世紀以上に渡り診療している「赤松外科消化器内科医院」を訪ねました。



■ 診療を開始されてどれくらいになりますか？

昭和38(1963)年に父が診療を開始し、今年で54年になりました。開院当時は入院設備もあり、外科・整形外科手術や分娩を行っていました。阪神大震災後に同地で再建のうえ、2代目として私が就任し現在に至っています。再建後、同一建物内に「あかまつ眼科」を併設し、妻が診療を行っています。

■ どのような患者さんが来院されますか？

風邪をはじめとした一般診療はもちろん、消化器外科が専門ですので胃カメラ・腹部超音波を中心とした消化器疾患の診療を行っています。最近では、父が取り上げたお子さんが親となって、ご自身のお子さんやお孫さんを連れて来院されることが多くなりました。

■ 診療にあたり心掛けていることは何ですか？

父の代から診療してきたこともあり、「地域密着型」を意識しています。患者さんご本人はもちろんのこと、家族の方の体調や状況についても気かけながら、地域に根ざした診療を行えるように努めています。

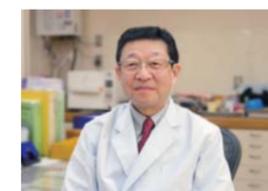
■ ひとこと

待ち時間が長くなることもありますが、診療所のメリットを活かして親切・丁寧に患者さんと関わっていきたく思います。また、引き続き地域の方々から信頼される医院を目指して頑張りながら、次世代につなぐ役目を果たしていきたいと考えています。

information

- 神戸市灘区上野通4丁目4番15号
- TEL : 078-861-3046
- 診療科 : 消化器内科, 外科, リハビリテーション科

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	×	○	○	×
17:00~19:00	○	○	○	×	○	×	×



院長 赤松 良彦 先生